

# 景気ウォッチャー調査 (沖縄地域) ～2024年7月調査～

夏休み需要は好調  
先行きの物価高と人手不足に懸念

一般財団法人 南西地域産業活性化センター  
メールマガジン

# 用語の説明

- **景気ウォッチャー調査**：地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々から、顧客の様子など日々感じている街角の景気について、毎月調べている調査。
- **DI値**：生産や消費、物価などの景気変動に関する複数の指標から、景気の方角性や各経済分野への波及度合いを示す。値が50を上回る期間が多いと景気が好調傾向にあり、50を下回る期間が多いと不調傾向にある。
- **季節調整値**：季節的な要因で毎年同じような動きをするもの（夏にアイスクリームが沢山売れるなど）があることから、前月や前々月と比較する際に季節的な要因を除いた数値。
- **現状判断**：3か月前の景気状況と比較した、今月の身の回りの景気的具体的な状況などの説明。
- **先行き判断**：2～3か月先の身の回りの景気を今月の景気と比較した際の判断理由。

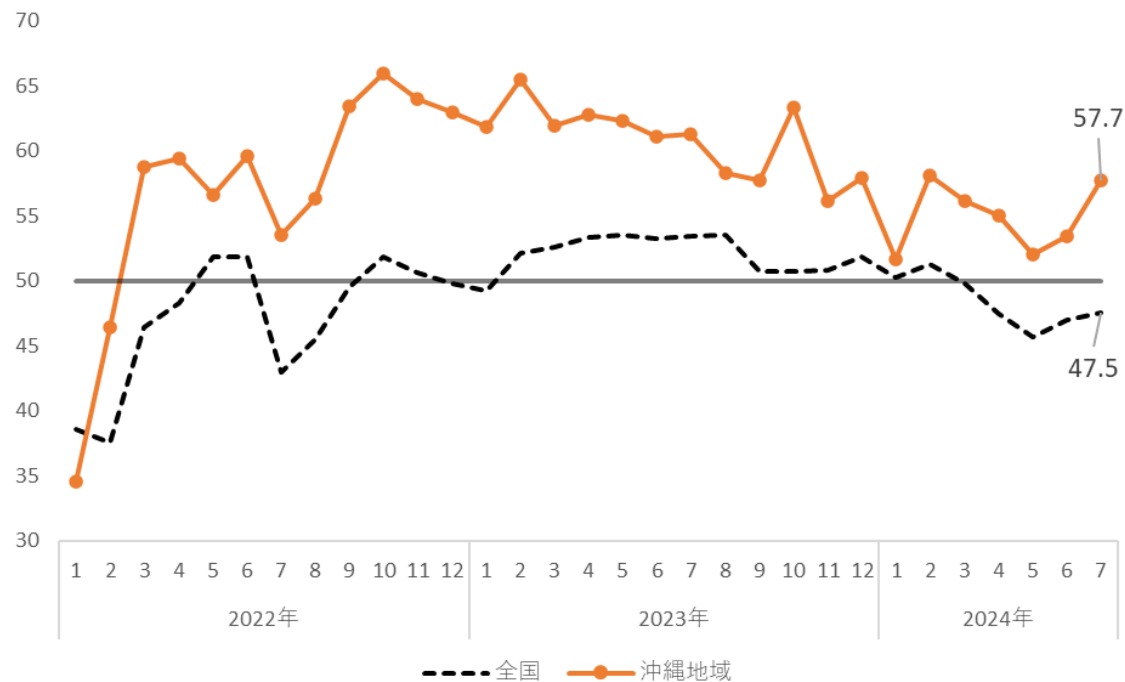
※本資料は、8月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」をもとに作成しています。詳細な結果は下記URLからご確認ください。

<https://www5.cao.go.jp/keizai3/2024/0808watcher/menu.html>

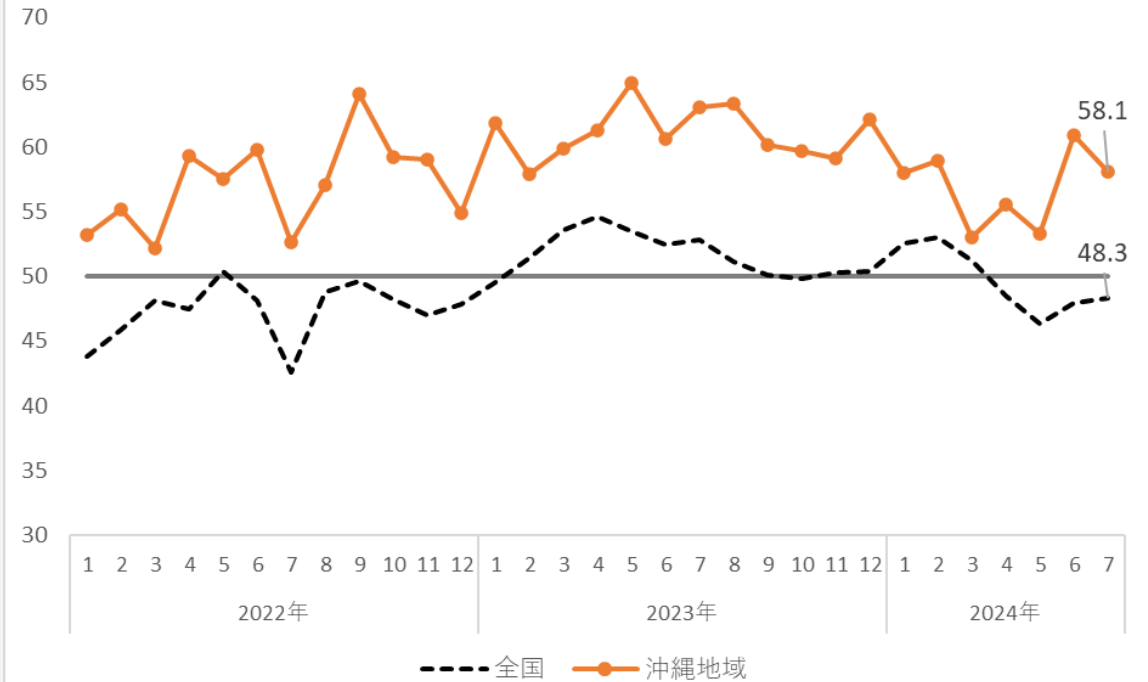
# 2024年7月調査DI値（季節調整値）

- 7月の現状判断DI（季節調整値）は、前月比4.3ポイント上昇の57.7と改善し、2か月連続で上昇しており、好調傾向を維持している。
- 7月の先行き判断DI（季節調整値）は、前月比2.8ポイント減少の58.1となっているものの、今年度の3月から5月にかけてのDI値より高く、好調傾向も維持している。
- 全国のDI値は、現状、先行き判断、共に好不調の判断基準となる50を4ヶ月以上連続で下回り不調傾向にあるが、7月に入り若干持ち直している。

## 現状判断DI値（季節調整）



## 先行き判断DI値（季節調整）



# 現状判断のコメント①

- 7月も家計動向関連で好況感を牽引している。特に夏休み期間ということもあり、人流が活発になってきている。
- 一方で、物価高騰などにより消費が落ち込んでいるようなコメントも見られた。

## <家計動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

◎	コンビニ（経営企画担当）	梅雨明け以降、人流の戻りが大きく、特に県内在住者の動きが顕著に表れている。それに加え、観光客の流れも非常に良くなっている。
◎	観光型ホテル（企画担当）	ホテルの4月の販売室数が前年比13%減少なのに対し、7月は同11%増加と、プラスに転じている。
○	コンビニ（副店長）	長期休暇に入り国内・訪日外国人の来店が増加している。売上も前年を超えているが、物価高騰による価格転嫁が大半で収益率自体の大幅な回復はみられない。
□	観光型ホテル（代表取締役）	宿泊は3か月前と比べると増加しており、前年同期と比べても増加している。宿泊の売上は新型コロナウイルス感染症発生前の90%程度である。宴会部門は3か月前と比べると減少し、売上は新型コロナウイルス感染症発生前の90%程度である。ただし、人件費を中心に様々な経費が増加しているため経営状態は厳しい状況である。
□	旅行代理店（マネージャー）	夏休みの需要に少し期待していたが、旅費単価の高騰もありなかなか思うようには数字は伸びていない。
▲	その他飲食店 [バー] （経営者）	この数か月で減少した来客数が戻らない。
▲	住宅販売会社（取締役）	資材や人件費高騰、土地取得費のアップに賃金等が追い付いていない。そのため住宅建築の需要はあるが、年収の問題により融資が通らないなど厳しい状況である。また、それを認識している層が増加しているため、相談件数が前年比で減少している。

# 現状判断のコメント②

- 企業動向関連では、物価上昇の影響はあるものの需要が増加している業種もある。
- 雇用関連では、業界全体として人手不足や求人数が減少している傾向にあるが、観光、医療など求人数が増加した業種も一部見受けられる。

## < 企業動向関連 >

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

○	食料品製造業（役員）	• 梅雨も明けてバーベキュー等の行楽需要が増加している。観光客も新型コロナウイルス感染症発生前以上に増加し、ホテルを中心とした食品需要も増加している
○	窯業土石業（取締役）	• 見積依頼は3か月前と比較し公共・民間工事とも特に変化はないが、受注は緩やかに増加傾向である。
□	会計事務所（所長）	• 業種に関係なく、物価高での各コストの増加に伴う売上への価格転嫁が追い付いておらず事業利益自体が伸び悩んでいる。

## < 雇用関連 >

□	人材派遣会社（総務担当）	• 求人案件に比べて求職者の動きが鈍く、マッチングにつながらないため人手不足が続いている。
▲	求人情報誌制作会社（営業）	• 3か月前の4月と比較すると求人数は減少しているが季節的な動向として捉えている。前月と比較すると求人数はやや増加している。求人数が増えた業界としては、観光、レストラン（非アルコール）、医療、情報産業が挙げられる。観光、レストラン（非アルコール）の増加に関しては夏シーズンの人手需要と考えられる。一方で量販店小売業・コンビニの求人数はやや減少している。

# 先行き判断のコメント①

- 2～3か月後に向けて予約の増加や新商品の販売による需要の増加が見込まれる。
- 対して物価や人件費の高騰、新型コロナウイルス感染症の増加などの影響もあり、消費の先行きが不透明との懸念もある。

## <家計動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

○ 観光型ホテル（企画担当）	• ホテルの7月の販売室数が前年比11%増加なのに対し、7月末時点での10月の予約室数は前年比14%増加と、プラス幅が大きくなっている。
○ 通信会社（営業担当）	• 9月には新商品の発売が予想され、現在の好調な状態を保ちつつ9～10月に更にアップするのではないかと期待している。
□ 商店街（代表者）	• 沖縄では沈静化していた新型コロナウイルス感染症が増加傾向にある。観光関連は良い傾向にあるが、一般的な物販等は苦戦している。現状が続くとみている。
□ 衣料品専門店（経営者）	• 今月は、セール時期ということで、売上アップと在庫処分を期待していたが、売上と販売量が上がっていない。まだまだ景気が良くなるような感じはないとみている。
□ 観光型ホテル（代表取締役）	• 宿泊予約は、前年とほぼ変わらず微増している。宴会部門も同様である。人件費など様々な経費が増加しており、それに対応できるような売上が見通せない。
□ その他サービス [レンタカー]（営業）	• 先行きの受注状況は前年を少し割れているが、最近は利用間際での受注が増加している状態が続いていることから、この傾向は当面維持するとみられる。
× その他飲食店 [バー]（経営者）	• 飲食店に関わる全ての物価が上昇し、客足が落ち込んでいるため、良くなる気配はないとみている。

# 先行き判断のコメント②

- 企業動向関連では、需要増も見込まれる中、物価高騰などの影響により先行きの懸念が見られる。
- 雇用関係では、インターンシップなどにより業界の動きは活発になると見られているが、求人者からの人手不足の声は依然として多い。

## <企業動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

○	食料品製造業（役員）	• 緩やかではあるが今後も観光関連需要は増加が見込まれ、県外での沖縄フェアも増加が見込まれている。
□	窯業土石業（取締役）	• 受注は緩やかな増加傾向であるが、原材料及び物流費の値上げによる製造原価上昇で収益面が懸念される。
▲	会計事務所（所長）	• 物価高と金利アップが同時並行に生じることから、各業種における業績好転には時間を要するとみている。

## <雇用関連>

○	学校〔専門学校〕（就職担当）	• 2026年卒向けのインターンシップが本格的に動き出すため、学生の動きも含めて活発になるとみている。
□	人材派遣会社（総務担当）	• 求人広告を出しても反応が悪く、人材不足が続いている。
□	職業安定所（職員）	• 求人者から景気上昇の話が聞こえてこない。人手不足の声も依然多く、現状が続くと予想し、将来の景気は変わらないとみられる。